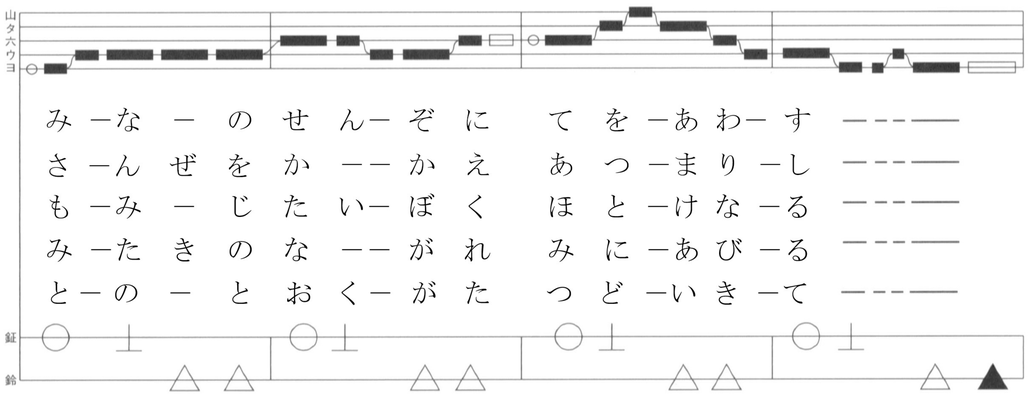
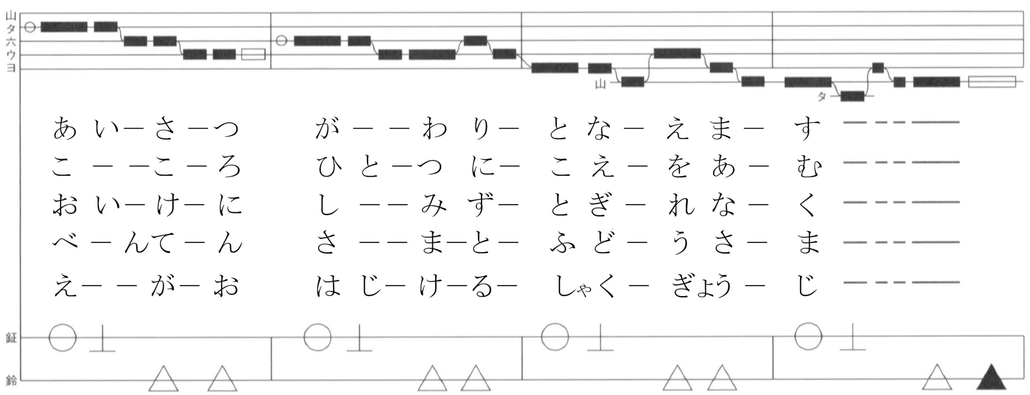
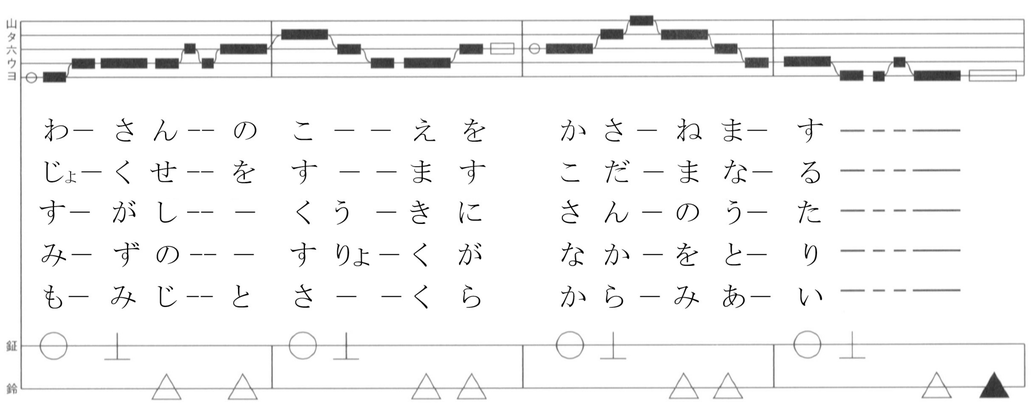
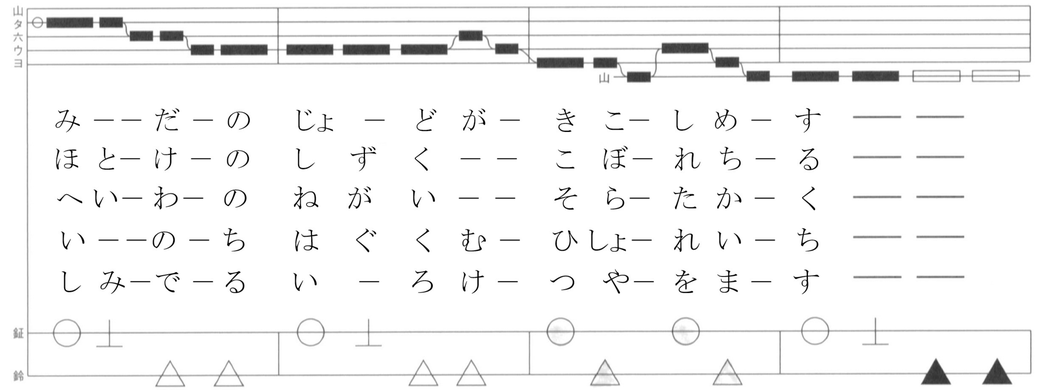
F01　石行寺スピリッツ－和讃

（原曲「地蔵菩薩和讃」）









（短歌）

石行寺　曼荼羅金胎（こんたい）　表（おもて）出す　亮照（りょうしょう）僧が　大日如来
住職は　宗派を問わず　受け入れて　中（ちゅう）に善導　扇の要

皆（みな）の先祖に　手を合わす　挨拶代わり　唱えます（７・５）
和讃の声を　重ねます　弥陀の浄土が　聞こし召す（７・５）

三世（さんせ）を抱え　集まりし　心一つに　声を編む（７・５）
濁世（じょくせ）を清ます　木魂（こだま）鳴る　仏の滴（しずく）　零（こぼ）れ散る（７・５）

紅葉大木（もみじたいぼく）　仏成る　御池（おい）に清水　途切れなく（７・５）
清（すが）し空気に　讃（さん）の歌（うた）　平和の願い　空高く（７・５）

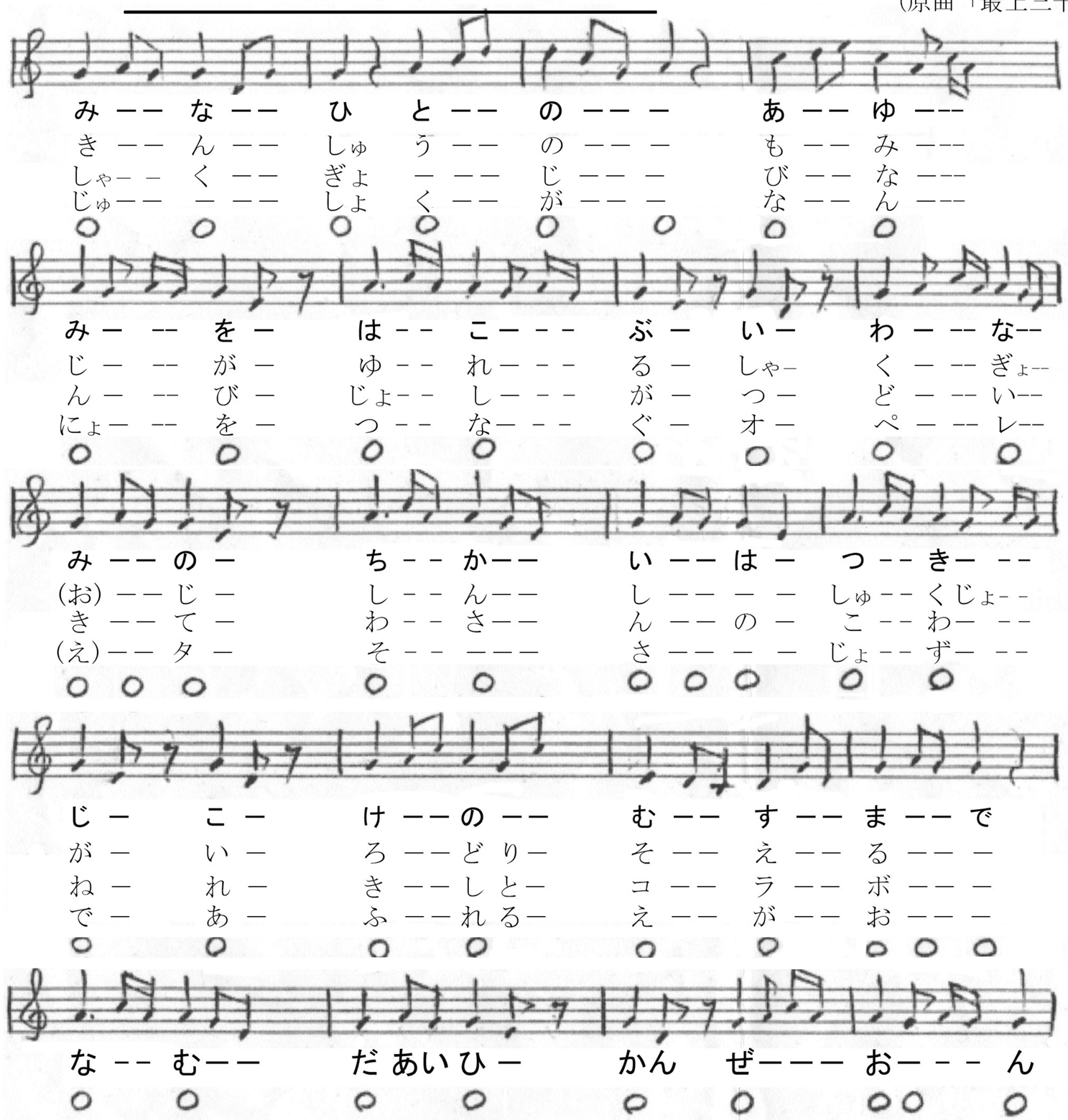
神滝（みたき）の流れ　身に浴びる　弁天様と　不動（ふどう）明王様（７・５）
水の素力（すりょく）が　仲を取り　命育む　秘所霊地（７・５）

殿と奥方　集い来て　笑顔弾ける　石行寺（しゃくぎょうじ）（７・５）
紅葉と桜　絡（から）み合い　沁（し）み出る色気　艶（つや）を増す（７・５）

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載
(注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

F02　石行寺風景－ご詠歌

（原曲「最上三十三観音ご詠歌」）



――皆人の　歩みを運ぶ　岩波の　誓いは尽きじ　苔の蒸すまで――

（楽譜直下の歌詞は、第７番岩波観音のご詠歌）

（以下、５・７・５・７・７）

錦秋の　紅葉（もみじ）が揺れる　石行寺　紳士淑女が　彩り添える

石行寺　美男美女子が　集い来て　和讃の声音（こわね）　歴史とコラボ

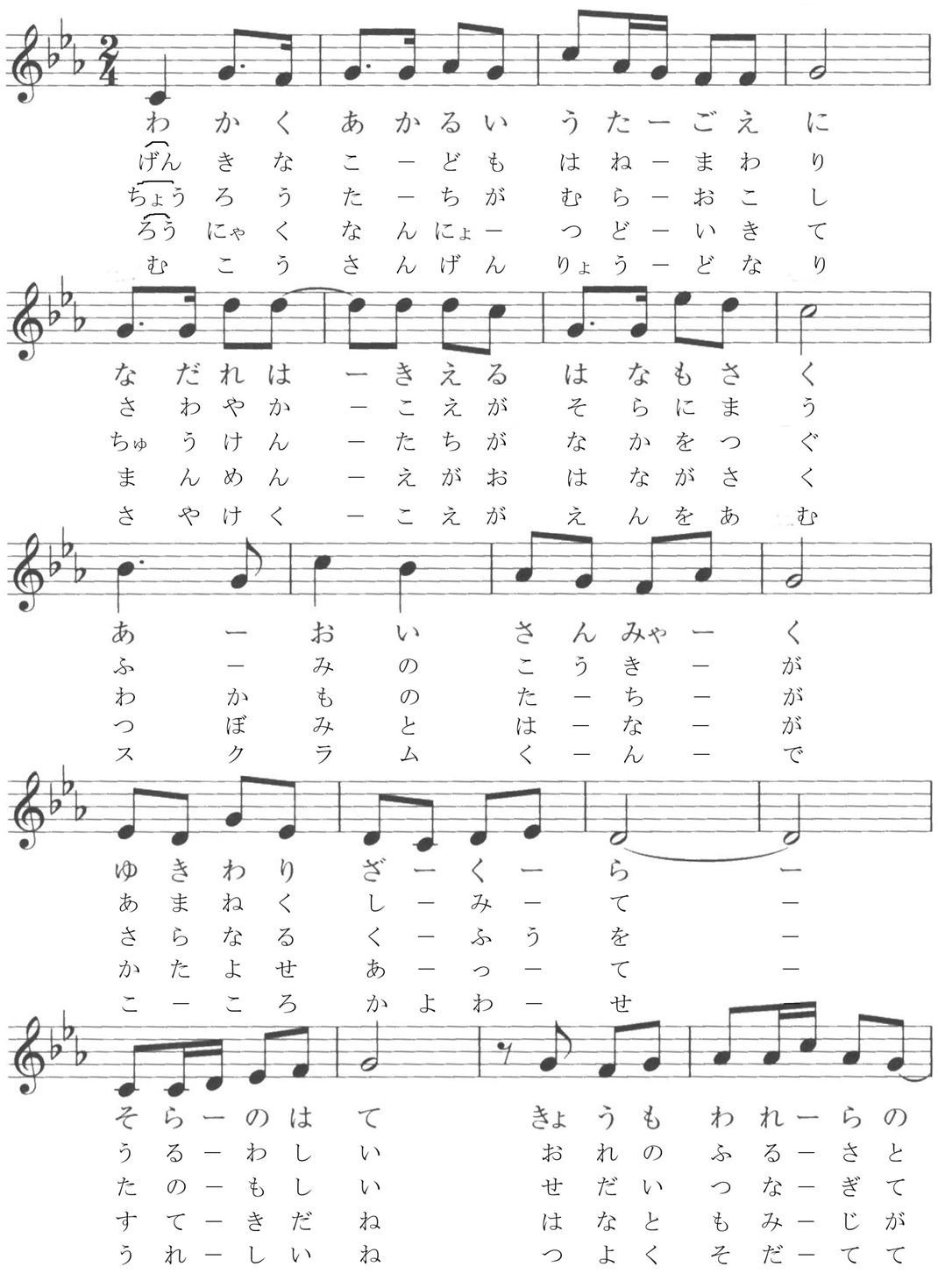
住職が　男女（なんにょ）を繋ぐ　オペレータ　操作上手で　溢（あふ）れる笑顔

（注１）；楽譜ならびに唄の発声は山形市岩波石行寺の
　　佐藤亮照住職作

（注２）；詩（短歌三首）は大沼香作
　　2015(H27)年6月6日（土）

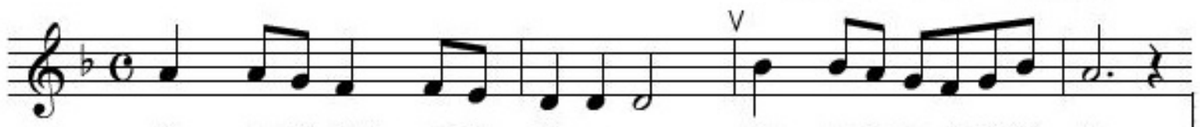
F03　吾が故郷は桃源郷－歌謡曲

（原曲「青い山脈」）

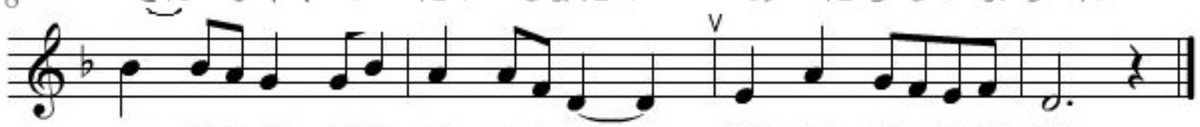

わかくあかるいうたーごえにりしてりくががでのとてがて
げんきなこーどもがはねーまわこきしてるなみだらさぎじて
ちょうろうたーちがむらーおいきなーーー

F04　上桜田情景－歌謡曲

（原曲「四季の歌」）



1	か	みさ	くら	だの	ちく	は	ひ	がしに	りゅう	ざ	ん
2	か	みさ	くら	だの	とち	は	に	しをむ	いて	い	る
3	むっ	つの	や	しろ	がた	ち	し	んぶつ	なか	よ	く
4	こ	こら	から	まの	はて	は	う	ちゅう	にむ	すん	で
5	りゅう	ざん	が	わを	わけ	て	な	なぜき	なが	れ	る
6	こ	とば	の	なさ	けが	まう	か	みさく	らだ	の	ち
7	とう	ほく	げい	こう	だい	は	か	しこき	をち	ら	し
8	さん	びゃく	の	だい	しょた	い	あ	たらし	いま	ち	に



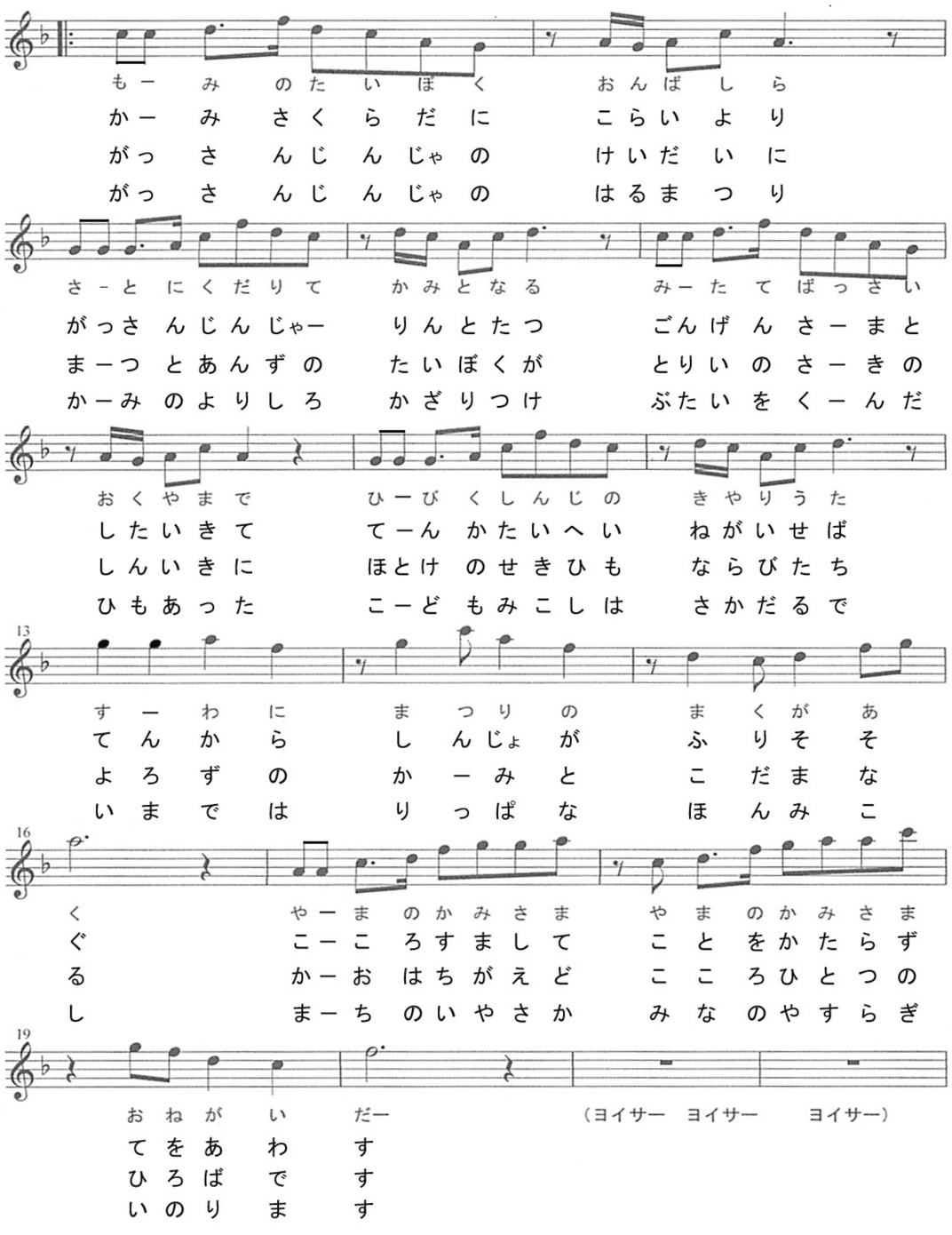
1	れ	いきが	あさ	ひ	にとけて	ー	し	あ	わせが	く	る
2	あ	かねの	ゆう	ひ	にのり	ー	ふ	く	のかみ	く	る
3	じっ	ぽーに	めー	を	くばり	ー	た	み	をみま	も	る
4	あり	もなし	むー	も	なしの	ー	ぼ	さ	つがな	ご	む
5	ゆ	たかな	つち	と	みずひは	ー	い	の	ちはぐ	く	む
6	てん	ちじん	さん	ざ	いーの	ー	こ	だ	まがひ	び	く
7	ゆう	そうの	おー	か	からは	ー	や	す	らぎそ	そ	ぐ
8	お	おきく	へん	ぼ	うとげて	ー	た	さ	いなひ	と	が

一、上桜田の地区は東に瀧山
　霊気が朝陽に溶けて幸せが来る
二、上桜田の土地は西を向いている
　茜の夕日に乗り福の神来る
三、六つの社が立ち神仏仲良く
　十方に目を配り民を見守る
四、ここら空間の果ては宇宙に結んで
　有りもなし無もなしの菩薩が和む
五、龍山川を分けて七堰流れる
　豊かな土と水・陽は命育む
六、言葉の情けが舞う上桜田の地
　天地人三才のこだまが響く
七、東北芸工大は賢こきを散らし
　悠創の丘からは安らぎ注ぐ
八、三百の大所帯新しい街に
　大きく変貌遂げて多彩な人が

（注１）音譜直下の歌詞は、「四季の歌（歌唱-芹洋子／作詞：荒木とよひさ／作曲：荒木とよひさ）」の１番目の歌詞、
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日（土）

F05　上桜田　月山神社を寿ぐ祝歌ー歌謡曲

（原曲「御柱」）



一、上桜田に古来より　月山神社凛と建つ
権現様と慕い来て　天下泰平願いせば　天から神助が降り注ぐ
心清まして、言を語らず手を合す

二、月山神社の境内に　松とあんずの大木が
鳥居の先の神域に　仏の石碑も並び立ち　萬の神と木魂生る
顔は違えど、心一つの広場です

三、月山神社の春祭り　神の依代飾り付け
舞台を組んだ日もあった　子供神輿は酒樽で　今では立派な本神輿
町の弥栄、皆の安らぎ祈ります

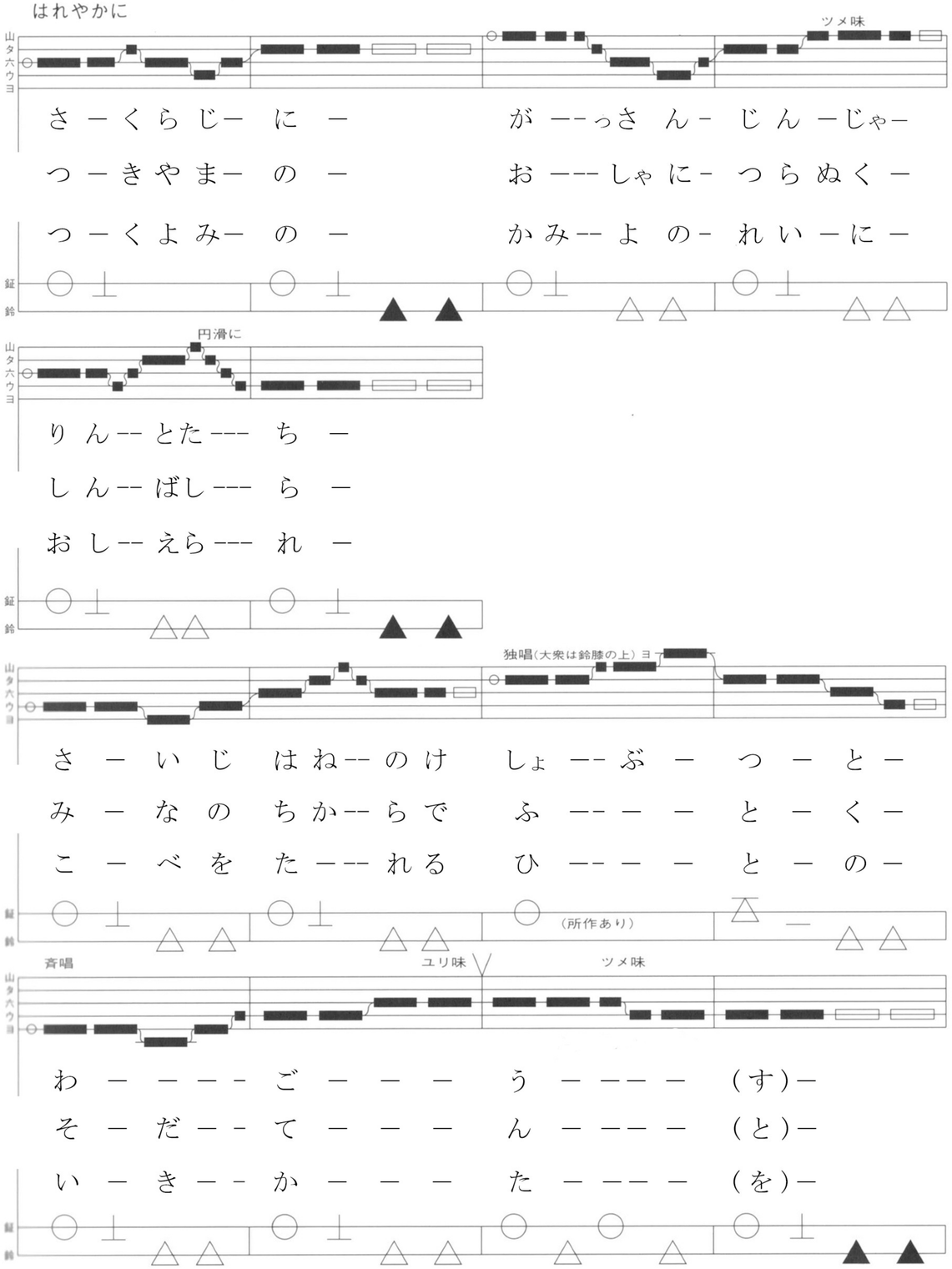
（注１）音符直下の歌詞は、「御柱（歌唱ー美咲／作詞；小林茂雄／作曲；美咲）」の１番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

F06　上桜田　月山神社崇敬賛歌－和讃

（原曲「壽ぎ和讃（結婚賛歌）」の短歌部分抽出）

平調
詠歌約一分十五秒、和讃は約一分二十五秒で唱える
はれやかに



（和讃）

（以下、５・７・５・７・７）

一、桜地（さくらじ）に　月山神社（がっさん）　凛と建ち
細事撥（さいじは）ね退（の）け　諸仏と和合

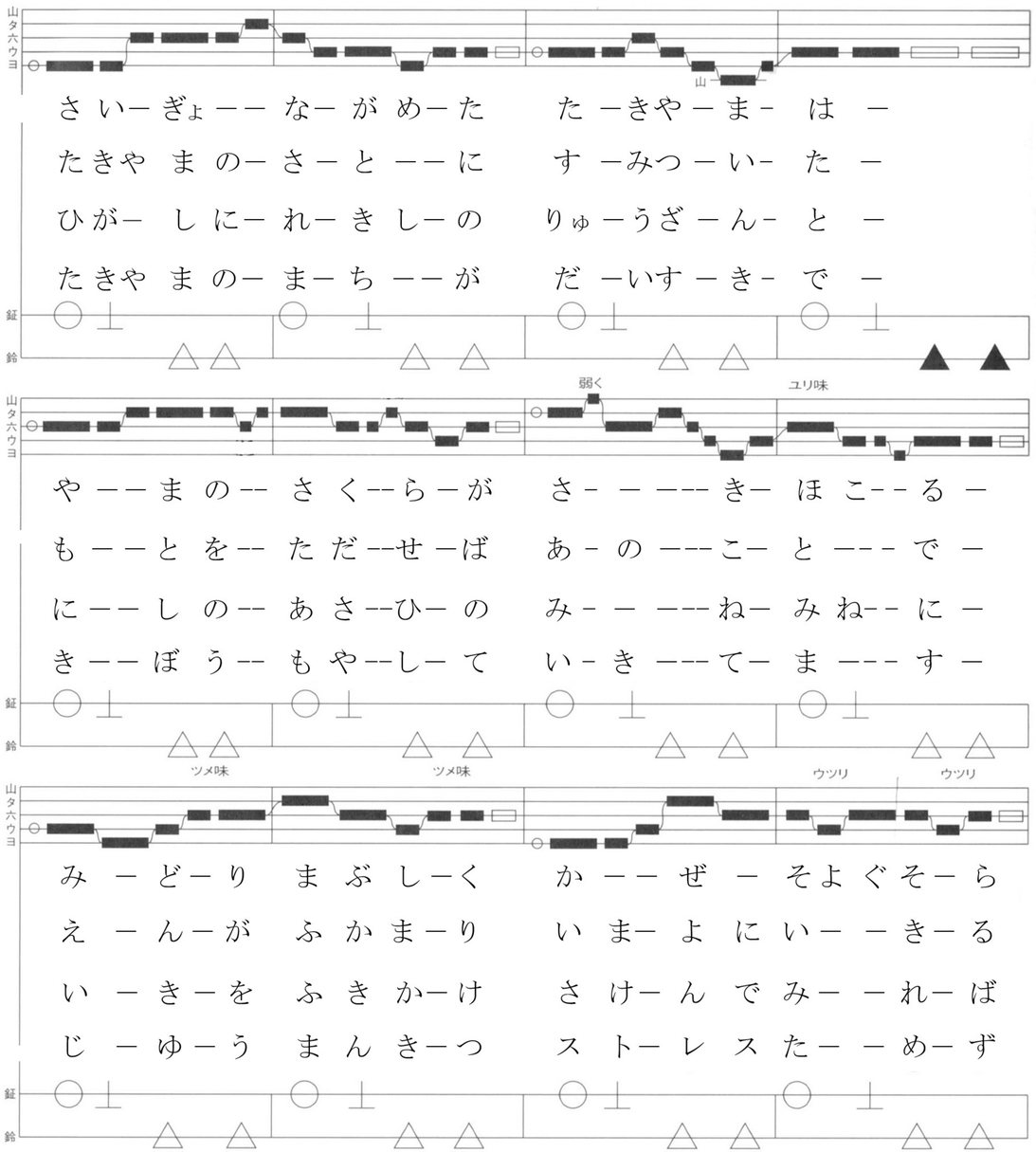
二、月山（つきやま）の　御社（おしゃ）に貫く　神柱（しんばしら）
芯　皆（みな）の力で　太く育てん

三、月読尊（つくよみ）の　神代（かみよ）の霊に　教えられ
頭（こうべ）を垂れる　人の生き方

(注1);この楽譜は、「壽ぎ和讃」の短歌相当部分を抽出し、繋ぎ合わせたもの
(注2);楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載
替え歌の詩(短歌)は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）

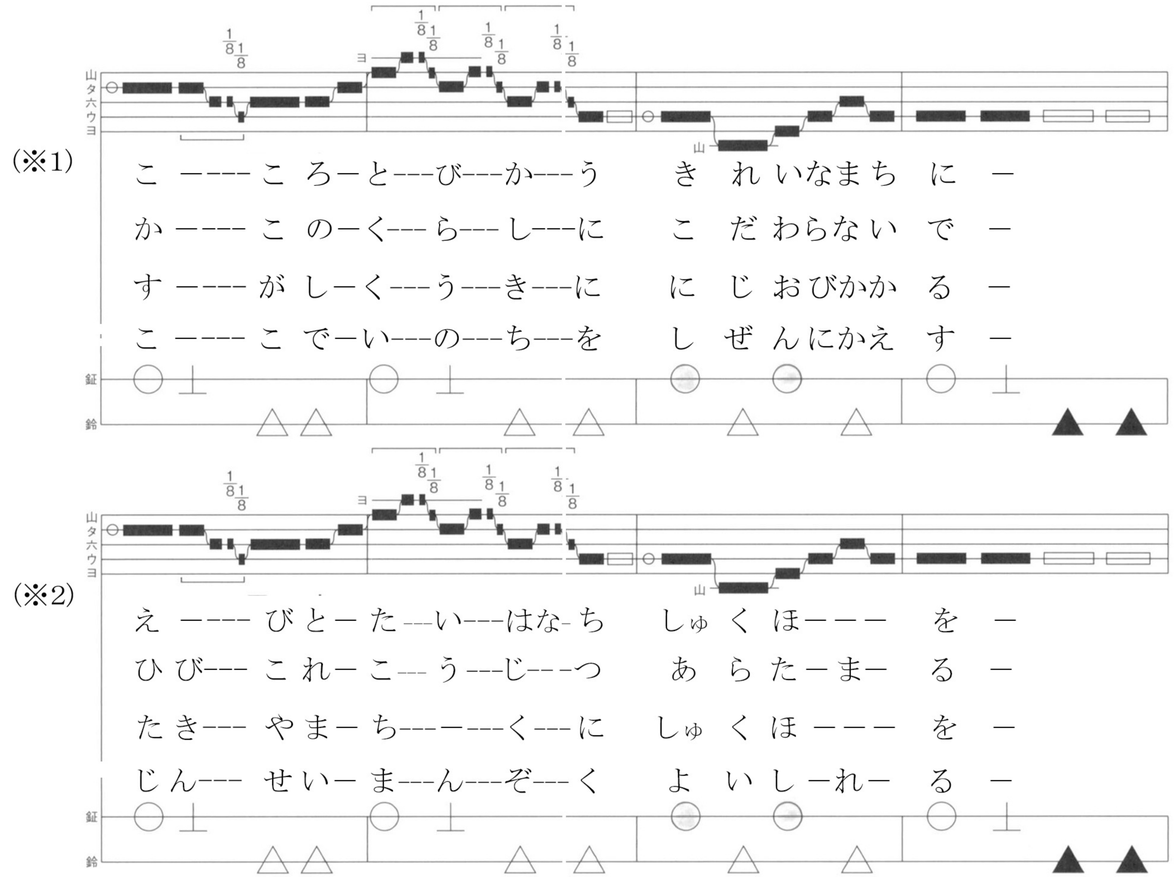
F07 滝山に祝砲を－和讃Ver.

（原曲「花和讃」）



(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載

(注2)替え歌の詩は大沼香作　2015(H27)年6月6日（土）



一、西行眺めた滝山は
やまの桜が咲き誇る
（大山）
緑眩(みどりまぶ)しく風そよぐ空
心(こころ)飛び交(か)うきれいな街に
海老(えび)と鯛(たい)放ち祝砲を

二、滝山の里に住み着いた
本(もと)を質(ただ)せばあのことで
縁が深まり今世(いまよ)に生きる
過去の暮らしにこだわらないで
日々これ好日(こうじつ)新たまる

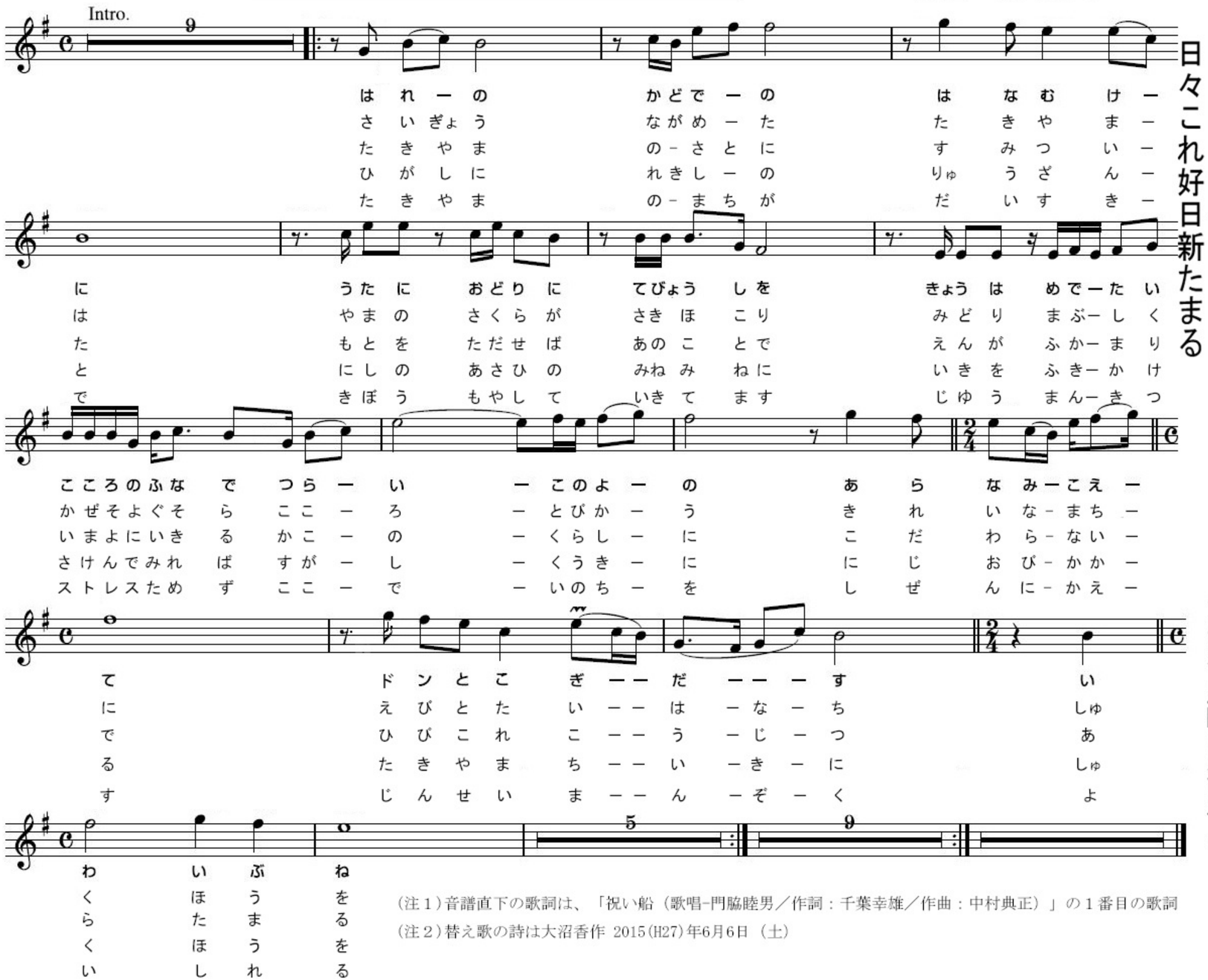
三、東に歴史の瀧山と
西の朝日の峰々に
息を吹きかけ叫んで見れば
清(すが)し空気に虹帯(にじおび)かかる
滝山地区に祝砲を

四、滝山の街が大好きで
希望燃やして生きてます
自由満喫ストレス溜(た)めず
ここで命を自然に帰す
人生満足酔い痴れる

(注3)※2の小節は、※1の小節の繰り返しに編集したもの。

F08　滝山に祝砲を－歌謡曲Ver.

（原曲「祝い船」）



（注１）音譜直下の歌詞は、「祝い船（歌唱-門脇睦男／作詞：千葉幸雄／作曲：中村典正）」の１番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作 2015(H27)年6月6日（土）

一、西行眺めた滝山は
やまの桜が咲き誇り
（大山）
緑（みどりまぶ）眩しく風そよぐ空
心（こころ）飛び交（か）うきれいな街に
海老（えび）と鯛（たい）放ち祝砲を

二、滝山の里に住み着いた
本（もと）を質（ただ）せばあのことで
縁が深まり今世（いま）に生きる
過去の暮らしにこだわらないで
日々これ好日（こうじつ）新たまる

三、東に歴史の瀧山と
西の朝日の峰々に
息を吹きかけ叫んで見れば
清（すが）し空気に虹帯（にじおび）かかる
滝山地域に祝砲を

四、滝山の街が大好きで
希望燃やして生きてます
自由満喫ストレス溜（た）めず
ここで命を自然に帰す
人生満足酔い痴れる